
「ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化」
平成 27 年度 ターゲットスポーツの選定について

日本スポーツ振興センター(JSC:JAPAN SPORT COUNCIL)は、「ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化」(以下「本事業」という。)において、平成 27 年度における新たなターゲットスポーツを決定いたしました。

記

■ターゲットスポーツ

1. 体操・トランポリン (男子)
 2. バドミントン (男子)
 3. 自転車・トラック (女子)
- 計 3 競技団体

■「ジュニア・ターゲットスポーツ育成・強化」とは

- 本事業は、2020 年オリンピック競技大会に焦点をあて、活躍が期待される若い年代の競技者に対して重点的・計画的な発掘・育成・強化を行う指導体制を整備し、2020 年オリンピック競技大会において金メダル獲得ランキング 5 位以上を目指すものである。
- 日本人が将来メダル獲得の可能性のある競技種目をターゲットとして、育成・強化戦略プランに基づくスポーツ情報・医・科学を活用した集中的な育成・強化を行うことをとおして、メダル獲得の潜在力を有する競技者の育成と新たなメダル獲得競技種目の育成・開発を図り、日本の国際競技力向上を推進する。
- 2020 年オリンピック競技大会に向けた育成・強化に関する戦略立案、実施、検証・評価、改善といった一連の取組みを実施し、育成・強化における新たな PDCA サイクルの確立を目指す。
- 昨年度は、文部科学省より受託した「2020 ターゲットエイジ育成・強化プロジェクト／ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化」として、6 競技団体(卓球(男子)、テニス(男女)、トライアスロン(女子)、水泳・競泳(男子:自由形)、陸上競技(男女:競歩)、ライフル射撃(男女))をターゲットとして活動を実施した。今年度については JSC の事業として、前述の 6 競技団体に加え新たに 3 競技団体に対して事業を推進する。

■選定における基本的な考え方

- 本事業では、昨年度に引き続きメダル獲得が期待される「メダル・ポテンシャル・アスリート(MPA)※」を増やすことを目的として、メダル獲得可能性の高いアスリート群を抽出することを通して、当該アスリートを有する競技団体の中から選定する。
 - 2020年オリンピック競技大会において、新たなメダル獲得競技種目の開発を図ることを前提として競技種目を選定する。
 - また、育成・強化体制等を含む競技団体の現状を総合的に判断し、競技種目を選定する。
 - 昨年度同様、チーム競技以外の競技種目から選定し実施する。
 - ターゲットスポーツ選定後、本事業のコンセプトに対して同意することができる競技団体と事業を開始する。
- ※ メダル・ポテンシャル・アスリートとは、主要国際大会において世界8位以内の入賞実績を有するアスリートを指す。

■本事業の主な取組み

- プロジェクトの推進(ターゲットスポーツ選定委員会、育成・強化推進会議等の開催)
- ターゲットスポーツに特化した育成・強化戦略プランの策定及び実施
- 育成・強化活動に係るモニタリング
- 戦略プランの検証・評価・改善
- ハイパフォーマンス・コンサルタントの活用による活動の高度化

<本事業におけるミッション>

